

検証授業のまとめ2 活動例 公民C「国の政治の仕組み」

公民の活動例C「国の政治の仕組み」について、東京近郊の中学校で検証授業を行った。授業を設計したJSLカリキュラム開発委員の一人が授業を実施した。以下、実施状況と授業後の研究協議内容について簡単に整理し、最後に、検証授業を通して獲られた示唆と、活動例を改善した点について報告する。

1. 実施状況

(1) 実施日：平成17年12月12日 午後2時30分～3時20分

(2) 対象：東京近郊の中学校の3年生 4名

男子 2名 フィリピン 滞日期間約9年 1名

中国 滞日期間約2年 1名

女子 2名 フィリピン 滞日期間約2年 2名

(3) 活動例 公民C「国の政治の仕組み」

学習单元「国の政治の仕組み」の学習過程の「つかむ」段階の学習を、取り出しの授業として実施する（学習单元全体の学習展開については、活動例公民C「国の政治の仕組み」を参照のこと）。

(4) 指導演案

.....

<指導演案>

①本時の目標：

・多数決の原理とその運用を踏まえ、国の政治の仕組みや議会制民主主義の意義をとらえさせる。

※ 地方自治学習を受け、議会制民主主義の意義について、国の政治の仕組みを踏まえ、とらえさせることが必要である。

②本時の展開

学習活動	・指導上の留意点、★教材	○日本語支援（タイプ）
導入 ○議会制民主主義を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・議会制民主主義について次の点から考えさせる。(国の政治のあり方を誰が決めるの。具体的には誰がどのように決めるの?) ★教科書や資料集の写真 ★②、国会中継のビデオ ★授業内容カード③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・母国の政治について知っていることを話させ、この学習のキーワードを示す(事前に母国の政治や国会の様子を保護者から聞き取らせておく。) キーワードを母語で確認する。(理・表) ・教科書や資料集の写真を見たり②、国会中継のビデオを視聴させ、イメージをつくらせる。【理解】 ・授業内容カード③でクイズ形式で確認する。【理解】

展 開	<p>○国会の地位を理解する。</p> <p>○二院制の意義を考える。</p> <p>○衆議院の優越の理由を考える。</p>	<p>・国民の代表機関、国権の最高機関、国の唯一の立法機関という3つの国会の地位をまとめさせる。(国民の代表だから国の政治のあり方を決めることができるの?)(国民の代表だから、最高機関なの?)(立法機関が2つあるとどうなるの?)</p> <p>★重要語彙④</p> <p>★ワークシート①</p> <p>・衆議院と参議院の二院制を取っている理由を考えさせる。(衆議院か参議院のどちらか片方だったらどうなるの?)(衆議院と参議院で違うことを決めたらどうなるでしょう?)(衆議院の方を大切に考えているのでしょうか?)(片方を大切にしているけど、具体的な手続きは?)(国会の仕事にはいろいろあるけど、どうして、予算案の審議だけは衆議院が先なの?)(予算案の審議の際は、公聴会を開くけどどうして?)</p>	<p>・生徒会本部役員と生徒会専門委員会の組織図を示したり、その活動について話し合って想起させ、議会制民主主義のイメージをつくらせる。【理解】</p> <p>・ここまでの学習を振り返り、重要語彙④の語句の確認を行いながら、ワークシート①を記入させる。(記)</p> <p>・衆議院と参議院の議員数、任期、被選挙権などについての図表資料の読み取りを行う。衆院と参院の違いについて具体的に問い掛ける。(理)</p> <p>・衆院の優位性が明確に現れている違いが何か探させ、衆院の優越性に気付かせる。(定数、議決方法など)【理】</p>
ま と め	<p>○国会の会議と議決方法を調べ、まとめる。</p>	<p>・ワークシートを活用し、これからの学習に対する見通しを持たせ、興味・関心を喚起し、学習の目当てを自覚させる。</p> <p>★ワークシート①</p>	<p>・ワークシート①について、やり取りしながら記入させ、学習内容を振り返らせる。重要語彙の確認も一緒に行う【記】</p>

(キーワード)

民主主義・政治参加・政党(与党・野党)・議会制民主主義・国の政治の仕組み(国会・衆議院・参議院・衆議院の優越・内閣・内閣総理大臣・議院内閣制・最高裁判所・三審制・司法権の独立・民事裁判・刑事裁判・三権分立・違憲立法審査権・国民審査)・多数決の原理

③教材・教具、問いかけ・応答の例

- 1)授業内容カード授業の流れに沿って学習内容をまとめたプリント
授業の流れに沿って学習内容をまとめたプリントをあらかじめ記入させておく。

公民プリントNo 1	
<h2>「国民の政治参加」</h2>	
3年()組()番氏名()	
○ 国の政治のあり方は誰が決めるの? (例えば、「議会制民主主義」とはどういうことでしょうか。)	
○ 国の政治のあり方をみんなで決めるけど、具体的には誰がどのように決めるの? (国会の3つの地位をまとめましょう。)	
① 国民の代表機関	国民の代表だから国の政治のあり方を決めることができるの?
② 国権の最高機関	国民の代表だから、最高機関なの?
③ 国の唯一の立法機関	立法機関が2つあるとどうなるの?
○ 衆議院か参議院のどちらか片方だったらどうなるの?(衆議院と参議院の「二院制」を取っている理由を考える。)	

△ あなたの母国はどうでしょう？(他の国との比較の結果は？)

○ 衆議院と参議院で違うことを決めたらどうなるでしょう？(「衆議院の優越」とはどのようなことでしょうか。教科書を見て考えましょう。)

解答例…国会の議決は両議院の議決が一致して成立することが望ましいですが、両議院の議決が一致しない場合には、衆議院に強い権限を与えているということ。

○ 衆議院の方を大切に考えているのでしょうか？(どうして、衆議院に強い権限をあたえたのでしょうか。)

解答例…衆議院は、議員数も多く、解散もあるなど参議院よりも民意（国民の意思）をより反映しやすいため。

○ 片方を大切にしているけど、具体的な手続きは？(衆議院の優越をまとめてみよう。)

予算・条約の承認	
内閣総理大臣の指名	⇒衆議院の議決が国会の議決となる
法律案	⇒法律となる

○ 国会の仕事にはいろいろあるけど、どうして、予算案の審議だけは衆議院が先なの？(予算については衆議院に先議権がありますがどうしてですか。)

回答例…予算は必ず4月の会計年度（予算は毎年4月に始まり3月に終わるのでこれをいう）の始まりまでに、成立させなければならないから。

○ 予算案の審議の際は、公聴会を開くけどどうして？(予算審議の際、予算委員会が必ず開かなければならないのはどのようなことですか。)

回答例…予算審議で慎重をきすために、必ず公聴会が開かれる。

2) 国会の外観や内部の写真、最近の国政の動きのニュース報道のVTR、新聞の社説やテレビ番組などの資料を準備する。

3) 授業内容カード
表（おもて）

くにのせいじのあり方は誰が
決めるのですか。

国の政治のあり方をみんな
で決めるけど、具体的
には誰がどのように決め

裏（うら）

しゅけんしや、こくみん
主権者は国民ですから。
国民です。

こくみのだいひょうである国会議員が
国会で決定します。

4) 重要語彙

以下の語彙群から、10個ぐらいに絞り込んだ方が良いでしょう。他のことばは、優しい言葉で言い換えたり、図や写真などで示されれば理解出来る程度でよしとする。

議会制民主主義・国会・国民・国会議員・代表機関・国権・最高機関・立法機関・議員数・任期
 選挙権・被選挙権・比例代表区・小選挙区・解散・改選・衆議院・参議院・二院制（両院制）・
 一院制・国民の意見の反映・慎重な審議・衆議院の優越・予算、条約の承認・内閣総理大臣の指
 名・両院協議会・不一致・法律案の審議・多数決・少数意見の尊重・両議院の議決の一致・公開
 傍聴・常会（通常国会）・会期・召集・臨時会（臨時国会）・特別会（特別国会）・総選挙・参議院
 の緊急集会・施政方針演説

重要語彙に読み仮名を振ってカードにして提示したり、クイズカードとして、表に語彙、裏に
 その意味を書いて繰り返し、説明したりして、利用や定着を促す。

○語彙カードにする。

例

ぎかいせいみんしゅしゆぎ

こくかい

こくかいぎいん

だいひょうきかん

こっけん

○クイズカードにする。

例

こっけん きいこうきかん、とは？

国家権力の最高機関である。 これは主権者である国民の代表 者による議会だからである。
--

2. 研究協議の内容

授業後、研究協議会が行われたが、そこでの以下の点が議論となった。

(1) 学習支援の方法について

- ・教科書の表から参議院の人数を調べて発言する場面では、生徒が自分から情報を提供する形で参加していた。やはり具体（半具体）を利用して調べたりする活動を中心にして組み立てることが有効だと考えられる。そうした具体の操作活動をより多く取り入れることが、内容の理解や概念化には大事だ。
- ・法律の例として挙げた教科書の無償配布や、給食の牛乳の支給、交通規則については、来日2年目の生徒も、大体の理解ができていた。来日間もなく、社会についての知識があまりない生徒にとって、身近な事柄からとらえさせるのがいいことが分かる。
- ・ただし、教科書や牛乳、信号といった具体的な事柄を、法律や立法の仕組みとして、理解させるには、前段階の国会についての基本的な事柄について学習が必要だったようである。

(2) 中学校の学習の前提となる基本事項の学習について

- ・「国民主権」ということばが分かっていなかったのも、その後の学習の理解は困難だった。国会の様子の写真などを示して、人々が「何をしているのか？」といったやり取りなどから、「国民主権」ということを理解させる必要があった。

ただ、中学校の学習指導要領では小学校段階で既に「国民主権」について学習していることが前提となっている。「国民主権」を中心にする、中学校の公民の内容とは言えなくなる。

- ・中学校の社会科では、各学習单元とも、小学校レベルの社会科の内容や社会的経験が前提となる。まだそうした知識や経験がないのであれば、まず、小学校の内容を JSL の考え方で学ぶ必要がある。

(3) 授業における日本語のレベルについて

- ・生徒の日本語のレベルから見ると、ワークシートの日本語も説明の日本語も難しいようだった。日本語を易しい言い方に変えたりして、コントロールする必要がある。
- ・勉強したことが分かったかどうかを確認するための活動を、意識的に授業の中に組み入れることが必要だった。今日の授業でならば、「国会」「議会制民主主義」について、もう一度具体物を利用して説明させたり、日本語での簡単な説明を読んだりするという方法があったろう。
- ・学習をスモールステップ化したのだから、そのステップ毎に、分かったことや理解したことをことばにしていくことが大事だ。ただ、必ずしも生徒が自力で説明できなくともいい。理解の確認であれば、生徒が絵や写真を示させたり、板書を見ながら該当する用語を選ばせたりしても、理解の確認はできる。
- ・授業者は、生徒が表現したい内容を表す適切な表現を補ったり、言い直したりしてやることで、生徒は自分の理解や学習して感じたことを言語化できる。そうしないと、学んだことが知識や概念として残らないだろう。

(4) 生徒の多様性への対応について

- ・4人の生徒は、日本語の力も、社会科の学習経験もことなる。女子生徒2名は、展開の前半の活動までで精一杯だった。男子二人も「二院制の意味」までが1時間でできる最大の学習内容だったようだ。1時間の授業としては、内容量が多すぎる。
- ・生徒の力に合わせて内容を減らす場合、単元全体の学習の流れとの関係を考えなければならない。学習内容を減らすと、在籍学級の学習にはついていけないということ考慮しなければならない。
- ・理解できないままでは、同じ進度で進んでも、結局授業にはついていけないのだから、生徒が確実に理解できる学習を展開するのがいい。

(5) 母語の力との関係について

- ・中国から来た生徒は来日2年目ではあるが、漢字の知識や母国での学習経験があるためか、大方の内容が理解できていたようだ。母語で学んだ知識が、中学校の社会科の学習では大きく影響するようだ。
- ・中学になってから日本に来る子は、母語で知識や概念をもっていることが多く、辞書を片手に日本語を調べながら内容を理解できる子もいる。そうした、母語の力を利用することを積極的に授業に組み入れていってもいいと思われる。

(6) 活動例で提案する支援の中身について

- ・社会科の教師であれば、社会科の授業としての展開は直ぐにイメージができるだろう。JSL社会科では、一般社会科では意識できない支援のヒントを示すことが大事だろう。
- ・日本語教育を専門とする先生が、この授業をする場合には、社会科の学習展開についての

情報も重要なヒントになる。そこは、各学習単元に関して、在籍学級の授業展開として「学習の流れ」のところで、示していけばいいだろう。

- ・「指導案」では内容を絞り込んで、そして、そのための具体的な支援の例（新聞の切り抜きを出す、教科書の無償配布に関する法律を例示する等）を具体的に書き込んで、支援の仕方を見える形で示す方がいいと思う。

3. まとめ

この検証授業では、生徒は集中して教師の話に耳を傾け、ワークシートで学んだことを整理するという作業に取り組んでいた。しかし、新聞の首相の写真や見出し、両院の議員数の表やグラフを見ながらの事実確認の質問にはなんとか答えていたが、国の政治の仕組みについて話し合うことはできなかった。全体としては、検証授業を行った生徒にとって、学習内容も活動も難しいものであったと言える。

そこで、以下に、この検証授業を通して得られた示唆と、それを基に活動例をどのように改善したかを述べる。

(1) 検証授業から得られた示唆

○日本語のレベルのコントロールの必要性

日常会話レベルができて、授業時には日本語を相当コントロールしないと理解が困難である。授業中に使う日本語やワークシートをもう少しやさしいものにする必要がある。

○学習内容の絞り込み

JSLの生徒であることを考慮すれば、取り出しで授業を行う場合にも、学習内容を絞り込み、内容の重点化を図る必要がある。在籍学級の学習展開（学習過程）の中から、どこの過程を切り出して授業を組み立てるのかを選択したら、その過程の学習内容を吟味し、重要な内容を中心とした授業を組み立てて行くことが必要だろう。少なくとも、その生徒の日本語の力や社会科の力から見て、理解できる内容であることが、内容の絞り込みの重要な基準となる。

○活動の流れは「具体から抽象へ」

社会科の内容の理解のためには、生徒の既知の事柄や身近な出来事、具体物や半抽象物の資料を利用した丁寧な導入が重要である。ことばでいくら説明しても、日本語自体がまだ弱い生徒にとっては、理解は望めない。また、その既知、身近、具体の事柄から、目標とする知識や概念へと理解を深めていくためには、学習の段階化をより細かに設定していくこと（スモールステップ）が必要である。

○理解の確認と言語化

理解したことを、確認するための活動を、スモールステップ毎に頻繁に行うことが重要である。しかも、確認の活動で、理解したことを表す語彙や表現の仕方を繰り返し聞いたり話したりすること（つまり言語化すること）を通して、知識としての定着や概念化を図ることが大事である。

○前提となる基本事項の学習状況への対応

中学校 J S L であるため、小学校レベルの社会科の学習については、一定程度の知識や学習スキルを有することが前提となる。そのため、そうした力が全くない場合には、小学校の社会科の内容を、小学校 J S L の考え方で授業を組み立てて実施することが望ましい。

※ただし、日本の小学校で社会科の学習をしていなくても、母国で社会科学習の経験がある場合や、日本社会についての一定程度の経験や知識をもっている場合は、中学校の社会科の学習は可能であると考えられる。

(2) 活動例を改善した点

- ・ 取り出しの授業で取り上げる内容を絞り込んだ。
- ・ 導入の段階で、国会中継のビデオや写真を利用して、イメージ作りをする活動を組み込んだ。
- ・ 新しい事柄については、生徒が知っている身近な事柄（信号、牛乳、教科書、生徒会の組織）の例示から学習を展開することにした。
- ・ 学習のステップ毎に、授業で利用した写真や語彙カードで理解を確認する支援を組み入れた。
- ・ 生徒の多様性に対応するためのヒントを、日本語支援の欄に加えた。例えば、小学生の時に来日した生徒に対しては、母国の政治制度を理解させるために写真などの資料を準備することなどである。
- ・ ワークシートに、日本語を見て分かれば答えられるように工夫をした。

例 1 : 「議会制民主主義」についてまとめる活動で用いるワークシート

問いに対し答えを記述する

→ 穴埋め式（選択肢有り）にし、文の（ ）に適切なことばを入れて完成する。

例 2 : 「国会の三つの地位」についてまとめる活動で用いるワークシート

問いに対し答えを記述する

→ 該当するもの同士を線で結ぶ。